



平成22年9月24日

各位

会社名 株式会社マースエンジニアリング  
 代表者名 代表取締役社長 松波 明宏  
 (コード番号6419 東証第1部)  
 問合わせ先 常務執行役員管理本部長 佐藤 敏昭  
 電話番号 03-3352-8555

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成22年5月12日に公表しました平成23年3月期(平成22年4月1日～平成23年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,011	2,828	2,912	1,570	85.09
今回修正予想(B)	12,746	2,699	2,772	415	22.51
増減額(B-A)	△1,265	△129	△140	△1,155	—
増減率(%)	△9.0	△4.6	△4.8	△73.6	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	15,503	4,121	4,256	2,635	142.85

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	31,102	6,800	6,959	3,867	209.66
今回修正予想(B)	27,261	5,029	5,168	1,602	86.87
増減額(B-A)	△3,841	△1,771	△1,791	△2,265	—
増減率(%)	△12.3	△26.0	△25.7	△58.6	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	29,319	7,340	7,474	4,511	244.57

平成23年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,000	1,517	2,675	2,113	114.54
今回修正予想(B)	9,300	723	1,957	543	29.41
増減額(B-A)	△1,700	△794	△718	△1,570	—
増減率(%)	△15.5	△52.3	△26.8	△74.3	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	12,503	2,323	3,527	2,669	144.73

平成 23 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	24,500	4,013	5,348	3,626	196.55
今 回 修 正 予 想 (B)	20,000	2,127	3,448	1,408	76.32
増 減 額 (B-A)	△4,500	△1,886	△1,900	△2,218	—
増 減 率 (%)	△18.4	△47.0	△35.5	△61.2	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	23,159	3,772	5,054	3,149	170.74

## 2. 修正の理由

当社の主要販売先であるパチンコ業界は、従来に比べて少額で遊技ができる低貸玉営業が浸透し、遊技人口に改善が見受けられる一方で、日本経済の低迷を背景とする個人消費の冷え込みが影響し、パチンコホールの経営環境は厳しい状況が続きました。また、日本 A P E C の開催に伴い、都道府県の各組合で約 1 ヶ月間の遊技機の入替自粛期間が設定され、多くのパチンコホールでは先行き不透明な状況を静観し、周辺設備への投資を先送りする傾向が続いております。

このような中で当社グループは、従業員玉運び・玉積み業務をなくし、効率の良いホール経営を実現するパーソナル P C システム（以下「パーソナル」という）を中心にトータルシステムでの販売を行ってまいりましたが、案件が少ない状況の中で競合他社からも玉積みをしない各台計数システムが販売され、本格的な価格競争が始まっております。

当社グループは機能性や利便性、拡張性で競合他社との差別化を図りながら、販売してまいりました結果、売上総利益率は期初予想の数値で推移しているものの、売上件数が伸び悩んだため、売上高は期初予想を下回る見込みとなりました。

営業利益及び経常利益につきましては、売上高が期初予想を下回る見込みのため、上記のとおり修正いたします。

当期純利益につきましては、売上高減少による影響の他、特別損失として連結で 667 百万円の有価証券評価損を見込んでおります。また、過年度特許使用料として 600 百万円の特別損失が発生する見込みであり、上記のとおり修正いたします。

なお、配当予想につきましては、前回公表（第 2 四半期末：1 株当たり 30 円、期末：1 株当たり 30 円）のとおり、変更はありません。

業績向上に向けて、9 月には全国 7 箇所で開催（パーソナル IV、新 A i r 紙幣搬送システム「疾風（はやて）」等）の展示会を開催し、下期より本格的に販売する予定であります。

(注) 上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等につきましては今後の様々な要因によって上記業績予想数値と異なる可能性がありますので、ご承知おき下さい。

以 上